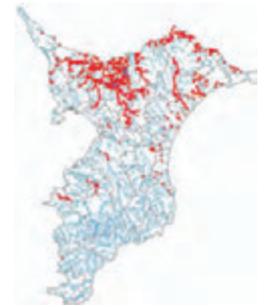


難防除雑草

「ナガエツルノゲイトウ」に注意!

河川・用水路を介して*特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の発生区域が拡大しています。定着すると駆除が困難な雑草で、生態系や農業へ悪影響を及ぼします。用水路、水田の水口付近や畦畔を見回り、早期発見・早期駆除に努めましょう。

*特定外来生物は、法律で栽培・運搬等が禁止されています。



県内の分布状況(2023年)
(県調査結果により作成)

特徴

【再生力:大】数cmの茎断片から容易に発根

【拡散力:大】茎はちぎれやすく、水に浮く

【侵略性:大】乾燥に強く、畑地などにも侵入



刈払機を使った除草は、茎や根の断片が周囲に飛散してかえって発生場所が拡大します!

ナガエツルノゲイトウの見分け方



【葉】



【茎】



【花】



間違えやすい植物

ツルノゲイトウ (外来種)



- ・球状花は葉の脇にくっつく
- ※ 花のない時期は見分けが困難

アメリカタカサブロウ (外来種)



- ・葉の鋸歯は明瞭
- ・花は球状でなく平たい

タカサブロウ (在来種)



- ・葉の鋸歯は不明瞭
- ・花は球状でなく平たい

出典:ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)

水田における対策

水田に侵入させない

- 水口に3ミリ目程度の種子もみ袋等の網を設置し、茎や葉の流入を防ぎましょう。
- 水田に侵入していないか、水口周辺をこまめに観察しましょう。
- 耕うん機等に付着して拡散するので、発生の無い水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。



網を設置し茎断片の侵入を防止

水田や畦畔でまん延させない

畦畔・本田で発見した場合は、下図を参考に除草剤で防除しましょう。

※ラベルの表示を事前にしっかり確認(適用場所・使用量・散布回数等)

※刈払機で除草すると、茎や根の断片が周囲に飛散して断片から再生するため、かえって発生場所が拡大します。

		移植		中干し	出穂	収穫			
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
畦畔防除	いずれかを散布	<ul style="list-style-type: none"> ●カソロン粒剤6.7 ※畦畔崩壊しやすい場合 			<ul style="list-style-type: none"> ●ザクサ液剤 			<ul style="list-style-type: none"> ●ラウンドアップ マックスロード 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●ラウンドアップ マックスロード 			<ul style="list-style-type: none"> ●ロイヤント乳剤 ・収穫前45日まで ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで 				
水田内防除	区分	移植			中干し				
		4月	5月		6月				
	体系防除A (散粒機及び大型噴霧器使用)	<ul style="list-style-type: none"> ●バッチリLX1キロ粒剤 (田植同時～移植後7日) 			<ul style="list-style-type: none"> ●ロイヤント乳剤 (移植後約40日) ・落水又はごく浅く湛水 ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで 				
体系防除B (散粒機使用)	<ul style="list-style-type: none"> ●ピラクロン1キロ粒剤 (田植同時～移植直後) 			<ul style="list-style-type: none"> ●ウィードコア 1キロ粒剤 (移植後約15日) ・ナガエツルノゲイトウの草丈5cmまで 					

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った

水田以外の対策

- 群落規模や現場条件に応じて、人力または重機での抜き取り・剥ぎ取りを検討。
※成長の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効
 ※除草剤は水系に流出するおそれのある場所では使用しない。(河川敷や水路など)
【その場で枯らす場合】
 - ①袋に密閉して、厚手のブルーシートの上に置くなどして枯らしてください。
 - ②自治体のごみ処理方法にしたがって処理してください。

「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル」(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)より抜粋

【お問合せはお近くの農業事務所まで】 作成:千葉県農林水産部環境農業推進課

令和6年11月

